

総合演習 授業案

授業タイトル：覚えた手話を用いてみよう！！

子供の設定：

- 地域の特徴

都市近郊で新興住宅地があり、核家族が多く 3 世代が同居している家庭は少ない。近くの住人同士は道で会ったらあいさつはするがそれ以外に関わりあいはあまり持っていない。自然環境は公園や戸建ての家の庭などに植えてある樹などしかなく、あまり恵まれていない。住宅地から少し離れたところに JR の駅がある。駅を利用する人は多い。駅と小学校との距離は徒歩 10 分ほどである。

地域には、養護学校があり、学校から徒歩 20 分の距離にある。

養護学校に通っている保護者が手話サークルをやっていて、クラスの児童も数名通っている。

また、以前から養護学校で行われている発表会に招かれるなどの学校単位での交流の場がある。

- 学年

小学校 5 年生

- 子供達の構成

男子 14 人 女子 16 人

核家族

子供たち同士の縦のつながりがもてていない。6 年生は 1 年生の面倒をみるという活動をしているので 6 年生と 1 年生の繋がりはあるが、ほかの学年ではそのような活動はしていないこともあり、同じ学年の友達と遊ぶことが大半で上下のコミュニケーションが希薄である。

子どもの野球のチームやサッカークラブ、子ども会などがなく、ピアノ教室も大手の会社が経営している音楽教室が駅前にあるだけである。そのため地域住民と関わる機会が少ない。

地域の住民と道で会いあいさつをされたら、受け答えをするが、自分からはしない。

学校では、担任へのあいさつは自分からするが、担任以外の先生へのあいさつは自分からしようにしない。

教師の問題意識：

核家族や、日中働きに出ている家庭が多いため、地域住民との交流の機会があまり無く、子どもたちは普段の生活の中で地域住民との交流があまり図れていない。したがって、お隣の家などごく限られた人との付き合いしか経験していないため、町なかで見知らぬ人が困っているのを見かけても声をかけられずに見て見ぬふりをしてしまうことが多々ある。

また、地域の養護学校に通う子ども達が近所に住んでおり、学校の催しなどを通して、養護学校の児童たちと関わりを持っている。しかし、自信を持って、積極的なコミュニケーションを図ることができなかった。そのため、知っている養護学校の児童さんと道で会った時にもどうすればいいか分からず、あいさつをしたりしなかったりというような状況である。

子ども達がこのような態度をとってしまうのには、「声のかけ方が分からない」、「自分から声をかける自信(勇気やきっかけ)がない」、「自分から声をかけることに馴れていない」からではないかと考える。

しかし、以前から養護学校でろうの子どもたちと関わっていたことや手話サークルに通っている子供たちが、積極的に手話を用いてコミュニケーションを図っている様子を見て、「私も手話をしたい」という声子供たちから上がってきた。そこで、クラス内で子ども達が自発的に「手話を学びたい」という気持

ちが芽生えてきたことをふまえて、手話を学ぶことを通して子ども達に養護学校の児童たちとのコミュニケーションのきっかけや自信を持たせ、自分から「他者に関わりたい」という気持ちを芽生えさせたい。

授業目的：

- ・障害のあるなしにかかわらず、同じ地域の一員という気持ちをもってほしい。
- 積極的なかかわりを築いていくための「きっかけの第1歩」として、ろうの子供たちと共に手話で1つのことを達成する。また、手話を切り口に、福祉に関心を持つ。

子供達の到達目標：

1. 手話であいさつ、お礼、喜びや感謝の表現ができる。
2. 手話や身振りをつかって自分の気持ちを伝えることができる。
3. 養護学校の児童と一緒に手話で歌を歌える。
4. 養護学校の児童に自分から手話で声をかけたり、あいづちを打つことができる。
5. 養護学校の児童と一緒に遊ぶ姿が見られる。

授業計画：授業目的を達成するために必要な授業数と各授業の概要

授業回数	テーマ	各授業での子供達の具体的な達成目標
1	手話を知ろう。	疑似体験を通して手話の必要性を挙げられる。
2	どうやったら伝わるの	前回の授業を受けて、コミュニケーションの方法を調べる。
3	こうやって伝えよう！	前回の授業で調べた方法を発表しあい、まとめる。 今私たちに出来ることか出来ないことかを判断→手話はほとんどの人が出来ない→手話を学んでみよう！
4	手話を覚えよう！	あいさつやお礼、喜びを表現できる手話を覚える。このために、参考資料を集める。
5	手話を覚えよう2！！	前回の授業を受けて、自己紹介や話したいことをロールプレイで表現し合う。
6	手話で歌おう1！！	手話で出来そうな歌を調べ、養護学校で歌う歌を決める。 手話で歌う練習を行う。
7	手話で歌おう2！！	前回決めた歌の練習を行う。 「ビリーブ」の前半部分を覚える。
8	手話で歌おう3！！	前回は引き続き歌の練習。 「ビリーブ」の後半部分を覚える。
9	10回目に向けてのリハーサル	次回の授業で養護学校へ行くので、その時に発表する歌のリハーサルを行う。
10	養護学校に行こう。	養護学校の児童に手話の成果を披露する。 手話を使ったゲームで養護学校の児童と積極的なコミュニケーションをとることができる。

本時の授業： 上記の表の 7 回目の授業

本時の授業でのポイントや指導上の注意点：

- ・覚えたかどうかの確認のため、一度は手話で最後まで歌う。
- ・歌いながら手話を覚えられるようにする。
- ・歌詞の意味と手話の動きの意味が関連していることに気づく。そして気づいたことを覚えるきっかけにできるようにする。
- ・本番を意識して、歌いながら手話を覚える。

授業方法：なぜ、その授業方法／教材、etc.を選んだのか？

- ・9回目の授業での養護学校訪問を前に、コミュニケーションのきっかけにもなる歌を覚えるため。
- ・CDプレーヤーを使い、曲を流しながら練習する。

本時の授業：教師は今までの授業で学んだ手話を交えながら指示する。

流れ	教師の指示内容	教師の動きなど	時間
導入	<p>・前回みんなで決めた歌の確認をする。</p> <p>T「前回の授業の時に養護学校で歌う歌をみんなで決めたけど、ちゃんと覚えていますか？」</p> <p>「助け合う気持ちを持つためにビリーブという曲を選びましたね」</p> <p>・手話のやり方が載っているプリントを配り、練習することを伝える。</p> <p>T「それでは、配ったプリントを見てください。今日はみんなで曲の前半部分の練習をしましょう。」</p>	<p>・簡単なやりとりは手話で返事をさせる。</p> <p>例)はい・分かった・いいえ など</p> <p>・選曲した想いを思い出す。</p> <p>プリントを受け取った時に児童に「ありがとう」などの感謝を表す手話をするように声かけをする。</p> <p>・CDプレーヤーを用意する。(ピアノが弾ける子供がいればキーボードを用意)</p>	5分
展開	<p>・曲を流し手話をやり、具体的な手話の流れを確認する。</p> <p>T「前回少し練習しましたが覚えていますか？それでは今から先生が今日覚える曲の前半部分のお手本をやってみます。皆さんは、伴奏にあわせて歌をうたってください。少し覚えている人は曲に合わせて手を動かしてみましよう。」</p> <p>・前半部分の流れのイメージを確認。</p> <p>T「曲に合わせてみると、こんな感じになります。今まで練習した手話がいくつか出てきていましたね。分かった人いるかな？」</p>	<p>・CDプレーヤーを作動させる。(伴奏を頼む)</p> <p>・曲の前半部分の手話の見本を見せる</p> <p>・過去の授業で学んだ手話を思い出させ、いくつか挙げてもらう。</p>	5分

	<p>・手話の動きを全体でひとつずつ確認</p> <p>T「まだ覚えていない手話もたくさん出てきましたね。それでは、最初の部分からひとつずつ手の動きを確認していきましょう。」</p> <p>T「手の動きは確認できたかな？手の動きと歌詞が関係していることが多いから、よく歌詞を思い浮かべながら覚えよう！」</p> <p>・動きの確認が終わったら、最初の部分から順にペアをつくって交互に見合いながら練習する。</p> <p>T「それでは隣の人とペアを組みましょう。今から曲を繰り返し流すので、交互に見合いましょう。まずはペアの廊下側のひとから2回ずつやっていきます。先にやる人は、1回目でアドバイスされたところを2回目で気をつけるようにしましょう。先に見ている人は、相手の間違えていたところや、できていなかったところをチェックしてアドバイスをしてあげましょう。」</p> <p>・先の人が2回終わったら、交代して2回</p> <p>・最後に一回曲を流し、どこまでできるようになったかを全員で確認する。</p> <p>T「自分が間違えてしまうところや、動きが分からなくなってしまったところは確認できましたか？それでは最後にもう一度曲を流すので、アドバイスされた部分に気をつけながら、手話でどこまで歌えるようになったかみんなでやってみましょう。」</p>	<p>例)あなた・私 など</p> <p>・歌詞と動きが関連してるので、歌いながらやる方が覚えやすいと伝える。</p> <p>・ペアで各2回ずつ(計4回)曲を流す。</p> <p>・全体で1回やってみる。</p>	<p>8分</p> <p>20分</p> <p>5分</p>
<p>まとめ</p>	<p>・次回の授業の確認。</p> <p>T「できるようになった人？」 「できるようになってどんな気持ち？」</p> <p>T「次の授業では歌の後半を練習して、最後に1曲とおしてみます。忘れてしまわないようにしっかりと練習しておきましょう。」</p>	<p>・手話で答えさせる。 例)はい・いいえ・嬉しい・楽しい など</p>	<p>2分</p>

評価： 子供達の達成目標が達成できたかどうか、何を判断基準にするか？

何をもって、この授業の評価にするか？

- ・手話で歌が最後まで歌える。
- ・手話で途中まで歌が歌える。
- ・歌に合わせてはできないが手話で歌おうとしている。
- ・大きい身振り手振りをして、伝わりやすさを意識している。
- ・お互いに、アドバイスし合ったり、助け合っている。
- ・ろうの子供たちともっと交流し合おうといろいろな提案をするようになる。

参考文献

Weblio 手話辞典 <http://shuwa.weblio.jp/> アクセス日 11月12日

Koumei`s 手話単語辞典 <http://jiten.ks2.info/> アクセス日 11 月 12 日

両方のサイトで手話の動画が見られるので、基本的な単語などはここで調べて練習することができる。

手話普及研究会（2007）『もっとトモダチになる簡単手話の本』学習研究社.

丸山浩路・山口万里子（1995）『あいさつをしてみよう』学習研究社.

谷千春・山口理恵子（2005）『親子ではじめよう！ はじめての手話ブック』講談社.

田中ひろし（1999）『はじめてのボランティア② これだけ手話 これだけはおぼえておきたいな』同友館